

【学校教育目標】	《重点努力目標》
21世紀を生きぬく 心豊かでたくましい 生徒の育成	基礎基本の定着と、「確かな学力」の向上を図る

【研究主題】	《目指す生徒を育成する視点》
学力の向上を図るための授業改善と効果的な家庭学習の実践	①学習意欲の向上 ②学習規律の徹底 ③効果的な家庭学習の習慣化
《研究で目指す生徒の姿》	
学ぶ目的を明確にし、授業や家庭学習に主体的・積極的に取り組む生徒	

【具体的な取組と数値目標】

A 授業改善(篠原・田浦・川口・林田)	B 家庭学習の定着(松村・原・河原・中右・小川)	C ICT活用(城戸・三浦祥・山口・松本・知念)
【今年度中心テーマ】 ☆ユニバーサルデザインを取り入れた授業 →指示等を口頭のみではなく、「見える化」された授業 (数値目標) 年度末に教師の自己評価(4段階)を行い、3・4の評価の割合を80%以上にする。 【その他の取組】 ・「めあて(課題)」と「まとめ」が子供に届く授業 ・ねらいに即した「書く活動」を重視する授業 ・「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」により安心して学べる授業 ・3分前着席、2分前黙想、1分間復習の徹底 等	・各学年による計画的、継続的な家庭学習の実践 ・家庭学習内容の精選、生徒への説明と実施 →出すことが難しい生徒や配慮の必要な生徒には個別に課題を配布するなど工夫をする。 ・学期毎の家庭学習定着状況についての確認及び見直し (数値目標) 自学ノート提出率100%	☆Googleform等を利用した振り返りシートの実践 →授業の理解度の確認や生徒からの質問を受け付ける等 (数値目標) 週に1回以上振り返りシートを使い、授業改善に努める ・Chromebookの活用方法についての検討及び授業実践 ・キュビナの活用方法についての検討及び授業実践

学力調査(全国・県・市)の結果等から本校生徒に身に付けさせたい力及び対策

国語(河原・田浦)	数学(三浦祥・松本・知念)	理科(小川・城戸)	英語(山口・林田)
(身に付けさせたい力) ○学習の基礎基本となる漢字や語彙の知識。 ○相手や場合に応じた的確に考えを伝えることのできる力(話す・書く)。 ○文章を正確に読み取る力。	(身に付けさせたい力) ○基礎・基本(正負の数の計算、簡単な文字式の計算)。 ○計算力、見直す力。 ○文章から情報を読み取る力。	(身に付けさせたい力) ○興味を持って学習する力 ○科学的思考力。 ○実験や観察の技能。	(身に付けさせたい力) ○学習の基礎基本となる語彙力 ○英語の基本的な文法を理解し、簡単な語句や文を用いて表現する力

<p>(対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○下位生徒に向けての補助発問やヒント。 ○教師の声かけ(褒める・プラス評価)。 ○「話す」・「書く」場の設定。 ○小テストや辞書・キュビナ等を活用した反復学習(漢字・語彙)。 ○単元ごとの自己評価(めあての達成状況の確認)。 	<p>(対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業はじめに時間を決めてワークやキュビナに取り組ませる。 ○導入の工夫。定期的な小テストの実施。 ○どこが間違っているかを判断する問題を授業内に行う。 ○教え合い(根拠を明らかにして説明し合う活動) ○キーナンバー、キーワードをチェックする。文章題に触れさせる機会を多くする。 	<p>(対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入場で、疑問を持たせる。 ○「できた」という達成感を味わわせる。 ○発表した生徒に対する賞賛的な声かけ。 ○生徒が自分の力で予想や考察し、周囲の生徒と議論できる場面を、各単元ごとに設ける。 ○観察・実験を多く取り扱う。 	<p>(対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎時間「めあて」明確にし、「まとめ」でこれだけはわかったという場面を作るような授業展開をする。 ○帯時間の活用として、Talking、Writingを取り入れ、表現活動に慣れさせる。 ○小テストを定期的実施し、基礎・基本の定着を図る
社会(原・川口)	音楽(篠原)	美術(中右)	保健体育(松村)
<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象を理解する力 ○グラフ・資料を読み取る力 ○社会的事象を説明する力 	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音符や休符など、楽譜に関する基礎的な知識を得て、音楽活動の中で主体的に活用しようとする力 	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや思いを色や形に表現する力 ○目にしたものの色や形から、美的要素や美の秩序を感じ取る力 ○美術の良さや楽しさを感じ取る豊かな感性 	<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたってスポーツに親しむ基礎となるスポーツを楽しむ資質や能力。 ○健康の保持増進についての基本的な知識。
<p>(対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本となる重要語句の習得 ○グラフ・資料の事実から気付くことを多く表現させる ○ペアワークなどの教え合い 	<p>(対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○用語や記号を学習する際に、成り立ちやイメージと結び付けて提示する ○期末テストで形成的評価を用いながら、繰り返し学習する機会や方法を提示する。 ○諸活動の中で、楽譜と結び付け、視覚的な情報を生かしながら音楽表現に取り組む機会を設定する。 	<p>(対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○彩色の技能などの基礎的な表現技能を確実に習得させる。 ○表現と鑑賞の学習をバランスよく配置し、感じることに表現することを効果的に連携させた学習を進める。 ○作品制作を通して根気強さや集中力、達成感や他者へ共感する心を養う。 	<p>(対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業内容の意図や目的を丁寧に伝える。 ○成功体験を増やし、意義を体感させる。 ○達成感や充実感を大切にする。 ○保健授業に関連する様々な場면을想定した例示の紹介を行い、健康・安全に関する知識を実生活に生かすよう促す。
技術・家庭(三浦教頭)			
<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技術・家庭科の基礎知識及び技能、また、取組を自身で評価、選択、管理・運用、改良できる力 ○よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造できる実践的な態度と力 	→		
<p>(対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとの学習のまとめで技術・家庭科の学習内容を振り返らせ評価させる。 ○よりよい生活を営む見通しをもたせる。 ○学習内容を複合させて課題を解決する力の育成を目指す。 			